

2021/4/1～2022/3/31

令和3年度 年次報告書



特定非営利活動法人 地球緑化センター



第 28 期緑のふるさと協力隊活動写真より

▶目次

- P.1-3 … 事業報告 緑のふるさと協力隊事業
- P.4-5 … 事業報告 体験交流事業
- P.6 … 事業報告 緑の学校事業・広報PR事業
- p.7 … メディア掲載
- p.8 … 会計報告
- p.9 … ご支援ご協力をお願い

事業報告

令和3年度（2021年度）も、前年に続き、新型コロナウイルスの影響を大きく受け、様々な制限がかかる1年間でした。そのような中でも、会員の皆さまや参加者の声、地域の思いを大切にしながら、できる限りの活動を展開してきました。臨機応変に対応するなかで、事業やプログラムの在り方を見直す機会ともなった一年でした。次年度以降の事業運営に生かしていきたいと思いません。一日も早く事態が落ち着き、そしてこれまで以上に多くの活動を実施できる日を願います。

1. 緑のふるさと協力隊事業

若者の長期農山村貢献活動。28年間で814名が参加。

総務省「地域おこし協力隊」のモデルにもなったプログラム。

(1) 第28期緑のふるさと協力隊の派遣

派遣先：12市町村（岩手県一関市、山形県小国町、群馬県上野村、愛知県豊根村、愛知県幸田町、石川県白山市、福井県坂井市、岡山県鏡野町、高知県大川村、宮崎県諸塚村、宮崎県日之影町、沖縄県東村）

派遣人数：15人（男性2人、女性13人）

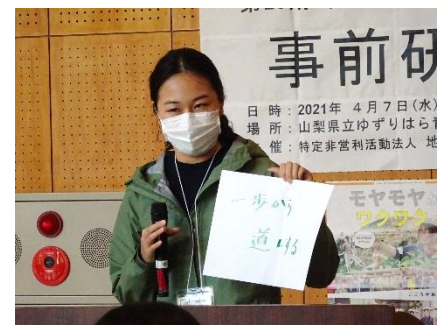
内訳：社会人4人、学生11人（うち休学8人）平均年齢：23.8歳

活動期間：令和3年4月7日（水）～令和4年3月13日（日）

事前研修：4月7日（水）～13日（火）5泊6日 山梨県立ゆずりはら青少年自然の里（山梨県上野原市）

内容：講座、フィールドワーク、個人面談、個人発表「現地活動に向けて」

新型コロナウイルス感染症の感染対策を講じたうえで研修を実施しました。隊員は研修の2週間前から検温や行動履歴の記入、PCR検査で陰性を確認して事前研修に参加。派遣先着任後にもPCR検査を実施し検査結果判明後から本格的に活動を開始させました。



受入先担当者会議：6月上旬の予定を10月上旬に変更したが、新型コロナの流行状況を考慮して中止。代わりに担当者アンケートを実施し、事務局で内容を取りまとめました。冊子にして受入担当者へ送付し、担当者間の情報を共有するとともに、今後の隊員サポートの参考にしてもらいました。

現地訪問：7月 事務局職員が受入先を訪問。隊員や受入先担当者との面談、活動先訪問など

派遣先を事務局職員が訪問し、隊員、受入先担当者、および地元活動先の方などから状況を聞き取り、活動地見学などをして、活動の調整、アドバイス等を実施しました。受入自治体の要請により訪問を中止した受入先には、電話やメールでの聞き取りを行いました。



中間研修：9月21日（火）～22日（水） オンラインによる開催

内容：情報交換、個人発表、グループワーク、事務連絡など

対面の予定でしたが、各自治体での状況や東京都内での感染状況を考慮し、オンラインで開催しました。画面越しではありましたが、お互いの活動について共有し、刺激をもらった研修になりました。



総括研修：3月10日（木）～13日（日） 3泊4日 国立オリンピック記念青少年総合センター

内容：個人発表、報告会の準備など

約1年ぶりの再会となった総括研修では、初日にこの1年間の活動を振り返る個人発表を行いました。その後は活動報告会に向けての話し合いや準備などに取り組みました。



活動報告会「エキサイト☆ふるさと2022」：3月12日（土）

昨年度に続き YouTube によるライブ配信を実施。（配信時の視聴回数：822回）

プログラム：活動地域の紹介、テーマ別グループ発表。

※当日の様子は YouTube 「緑のふるさと協力隊」チャンネル（右上 QR コード）から視聴できます。



(2) 「若葉のふるさと協力隊」(短期体験プログラム)の実施

農山村で暮らしてみたい、活動してみたいという農山村と関わるきっかけを求めている人や、「緑のふるさと協力隊」に興味を持っている若者たちを対象に、農山村での暮らしを体験できる機会として、8月～11月に12カ所で開催しました。

開催地：岩手県一関市、山形県小国町、群馬県上野村、群馬県高山村、愛知県豊根村、愛知県幸田町、石川県白山市、福井県坂井市、高知県大川村、宮崎県諸塚村、宮崎県日之影町、沖縄県東村

参加者：45人(男性14人、女性31人)内訳：学生…38人、社会人…7人



◎参加者の感想

「最初は何も分からず不安でしたが、様々なことを体験させていただいて、非常に充実した日々を過ごすことができました。ただ楽しむだけでなく、現地で実際に多くのことを学ぶことができ、吸収することができたので、次は多くの人に発信するように意識していきたいです。」

(3) 令和4年度(第29期)へ向けて

受入先の募集では、全国950市町村へ受入先募集要綱を配布し、全国山村振興連盟・全国町村会等の機関誌に募集記事を掲載していただきました。隊員の募集では、ポスターをリニューアルし、東京、大阪、名古屋、福岡で合計7回、OBOGの体験談も聞ける募集説明会を開催しました。また、①Twitter等への広告②Web掲示板への投稿③求人サイト「日本仕事百貨」記事掲載④SNSへの投稿(Facebook、Twitter、Instagram、note)等、インターネットを活用した募集を実施しました。

◎派遣先：12市町村、派遣人数：14人(男性6人、女性8人)

(4) 関係団体との連携

緑のふるさと協力隊 OBOG との協力連携

・緑のふるさと協力隊第27期の文集「かざみどり」を発行しました。

・緑のふるさと協力隊サポーター制度を令和3年7月に設立しました。

対象者：緑のふるさと協力隊 OBOG

サポーター年会費：3,000円(年度毎の更新)



2. 体験・交流事業



(1) 森林ボランティア「山と緑の協力隊」

国有林・公有林をフィールドとした市民参加の森林づくり活動。

これまでに 300 回以上のプログラムを開催、のべ 2 万人が参加。

森林ボランティア活動「山と緑の協力隊」の開催

令和3年度は、赤沢自然休養林、三宅島、湘南海岸林、高田松原、高取山の5カ所で合計9回の開催を予定していましたが、新型コロナウイルスの流行状況や緊急事態宣言、まん延防止等重点措置の影響に伴い、5月～10月の6回は中止になりました。

11月以降に実施したプログラムでは、検温・アルコール消毒などの感染症対策を講じました。

湘南海岸林ボランティア（神奈川県平塚市）

第 65 回 11 月 13 日（土）間伐 参加者 16 人

第 66 回 令和 4 年 3 月 26 日（土）クロマツ植樹 参加者 18 人



◎参加者の感想

「みんなで協力して木を倒すことは非日常的でリフレッシュできました。達成感があり楽しかった。」

「砂防林の役割も詳しく知ることができました。クロマツがスクスクと成長してほしいです。」

高取山プログラム（滋賀県多賀町）

11 月 27 日（土）～28 日（日）間伐、製材体験、森林学習 参加者 10 人



◎参加者の感想

「色々な方と出会い、話をすることができて良かった。自然との距離が近く、心がやすらぎました。」

「楽しかったです！林業に興味があったので、現場の人の働く姿を見ることができよかったです。」

(2) 企業における社会貢献活動、CSR、社内研修および交流活動の支援協力

新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して、活動日数や参加人数を調整して実施しました。企業と受入側をつなぐコーディネーター役として、連絡や調整を行いました。

メタウォーター株式会社 4 月 16 日（金）東京都奥多摩町

新入社員研修の一環として植樹（ヤマザクラ・シバグリ・トチノキ合計 60 本） 参加者 60 人

電機連合 4 月 24 日（土）～25 日（日）岩手県陸前高田市

「高田松原植樹祭」に参加しクロマツを植樹 参加者 7 人

株式会社 LIXIL 住宅研究所 11月29日(月) 山梨県上野原市

新入社員を対象とした森林ボランティア活動 スギ・ヒノキの間伐 参加者 10人



メタウォーター株式会社



電機連合



株式会社 LIXIL 住宅研究所



メタウォーター株式会社



電機連合



株式会社 LIXIL 住宅研究所

(3) 中国・緑化交流事業

団体設立の原点である中国での植林ボランティア。1993年から中国人民政府との連携で、内モンゴル自治区伊金霍洛(エジンホロ)旗、河北省豊寧県、重慶市など5カ所で実施。これまでに日本から120回以上植林団を派遣し、約2,500人が参加、ポプラなど747万本を5,600haに植林。

緑の親善大使の派遣

新型コロナウイルス感染症の影響に伴う渡航制限等のため「親善大使」は実施しませんでした。カウンタートであるエジンホロ旗林業和草原局から現在の植林地の写真や動画を提供いただき、活動紹介VTRを作成しYouTubeに掲載しました。



株式会社日本触媒 地球温暖化防止と日中友好の森づくり

苗木が大きく成長した植林地の様子をぜひご覧ください。

毎年実施しているエジンホロ旗への現地視察は中止となりましたが、現地林業和草原局による管理を今年で実施しました。【管理作業】散水、枝打ち、除草、防火対策、害虫予防、巡回など



日中植林・植樹国際連帯事業 (特別会計事業)

内モンゴル自治区エジンホロ旗、河北省豊寧県での植林活動を計画しました。中国でNGOが活動する際に届け出が義務付けられている「中華人民共和国海外非政府組織管理法 (NGO管理法)」の手続きに時間を要したため、両地区とも令和4年度に実施することになりました。

3. 緑の学校事業

児童・生徒を対象とした環境教育プログラム

訪問学習、イベント出展を通じて、子どもたちへ緑の大切さや自然と触れ合うことの楽しさ、森林の役割などを伝えています。

(1) エコ語り部チームの活動

新型コロナウイルス感染症の影響により、各種イベントが中止になっていることを受けて、また東京都内の流行状況を踏まえて、エコ語り部チームの活動は休止としました。

(2) 訪問学習の受け入れ

地球緑化センターの取り組んでいるボランティア活動を通じ、環境問題やSDGsについて考え、学ぶ場を提供しました。働くことや自分がやってみたいことを考えるきっかけにもなったようです。

東京都三鷹市立第六中学校 10月15日(金) 2年生6人

東京都小平市立第四中学校 11月5日(金) 2年生6人



三鷹市立第六中学校



三鷹市立第六中学校



小平市立第四中学校

4. 広報・PR活動、その他

地球緑化センターの活動を広げるための広報活動、関係団体との連携・協力に取り組みました。

(1) 機関誌、会員向け情報誌の発行

- ・機関誌「タマリスク」第147号(7月発行)、第148号(令和4年1月発行)
- ・会員向け情報誌「緑の通信」年3回発行(7月、10月、令和4年1月発行)



(2) 各種展示及びイベント参加

中央区健康福祉まつり 2021 10月24日(日) 中央区あかつき公園

中央区環境活動フェス 2021 11月13日(土)～15日(月) 中央区立環境情報センター

ecoワーク発表会/事例発表 令和4年2月9日(水) ※オンライン開催



中央区健康福祉まつり



中央区健康福祉まつり



中央区環境活動フェス

(3) ホームページ、SNS、ブログなどを活用した広報活動

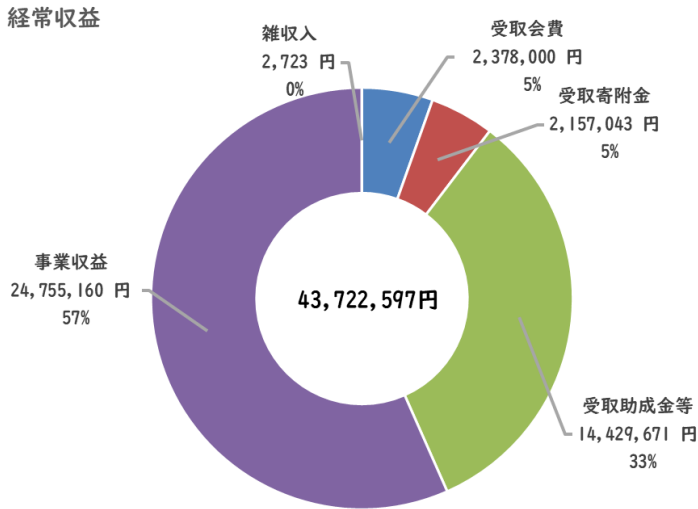
プログラム告知、開催案内としてホームページやWEB掲示板に投稿したほか Facebook、Twitter、Instagram 等 SNS に適宜活動報告などを掲載して広報活動を進めました。

会計報告

令和3年度も前年に続き、新型コロナウイルスの影響も受けた1年でしたが、緑のふるさと協力隊事業・体験交流事業共にほぼ予算に沿った事業収益を得ることができました。

令和3年度から開始した日中友好会館助成事業「日中植林・植樹国際連帯事業」に係る助成金の概算払いにより受取助成金が大幅に増加し、それに伴い事業費の資材費も当初予算より増額となりました。

会員・企業・団体からのご寄付のほか、令和3年度に新設した「緑のふるさと協力隊サポーター制度」では、少額で活動を支援できる仕組みとして緑のふるさと協力隊OBOGを対象にサポーター登録を呼びかけ、支援の輪が広がっています。



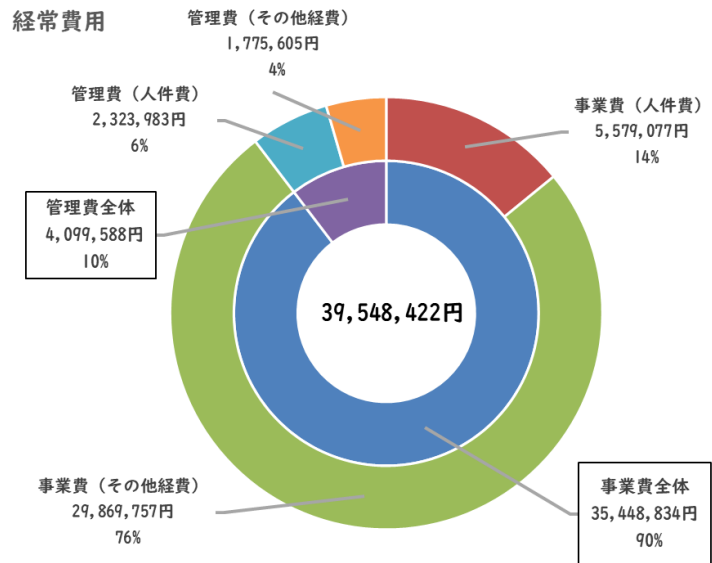
【寄付について】

令和3年度は合計で2,157,043円のご寄付をいただきました。

個人…43件、241,043円

企業・団体…4件、1,916,000円

連合「愛のキャンパ」、日本再生可能エネルギー株式会社、サンコービルサービス株式会社、合同会社グリーンゴールド



【貸借対照表】 (単位:円)

資産の部		負債の部		正味財産の部	
流動資産		流動負債		前期繰越正味財産額	
現金預金	21,567,723	未払金	5,073,000	当期正味財産増減額	13,161,303
未収金	100,000	預り金	134,969	正味財産合計	4,174,175
前払費用	198,000	前受金	560,000	負債及び正味財産合計	17,335,478
仮払金	100,524	流動負債合計	5,767,969		
流動資産合計	21,966,247	固定負債			
固定資産		退職給付引当金	862,800		
差入保証金	2,000,000	固定負債合計	862,800		
固定資産合計	2,000,000	負債合計	6,630,769		
資産合計	23,966,247				



ご支援ご協力をお願いします

皆さまからの寄付は大変大きな支えとなっています。地球緑化センターの様々な活動に有効に活用させていただきます。ご協力をよろしくお願いいたします。

▶**寄付** 地球緑化センターが実施している多彩なプロジェクトやそれを支える事務局運営費など、様々な場面で活用させていただくものです。

Syncable 寄付サイトでは、毎月一定額をご寄付いただける継続寄付も受け付けています。

▶**苗木募金** 中国及び日本国内での植林活動の苗木を購入するための募金です。

▶**緑のふるさと協力隊応援募金** 緑のふるさと協力隊事業を支えるために活用します。

▶**書き損じはがき・未使用切手の寄付** ご家庭にある書き損じはがき、年賀状、未使用切手等をお送りください。資料の送付等に活用します。



▶**不要になった洋服で支援**

ブランド品買取サービス「ブランディア」と寄付プラットフォームサービス「Syncable」の運営する買取寄付サービス『Brand Pledge』では、着なくなった洋服や眠っているブランド品で寄付ができます。

▶**携帯料金と一緒に寄付「つながる募金」**

ソフトバンクのスマートフォンから利用料金と一緒に寄付ができます。(Tポイントでの寄付も可)

寄付の方法

【現金での寄付・募金／書き損じはがき・未使用切手の寄付の場合】

地球緑化センター事務局まで送付またはご持参ください。

【振込での寄付・募金の場合】

寄付・募金申込フォームより必要事項をご入力の上、下記口座へご入金ください。

銀行振込：三菱 UFJ 銀行 八重洲通支店（普通）1011076 特定非営利活動法人地球緑化センター

郵便振替：00130-2-761479 特定非営利活動法人 地球緑化センター

★寄付・募金申込フォーム



【クレジットカードでの寄付・募金の場合】

オンライン寄付プラットフォーム「Syncable」地球緑化センターページよりご入金ください。

クレジットカードによる年会費の納入にも対応しています。



特定非営利活動法人 地球緑化センター

地球緑化センター（Green Earth Center：GEC）は、「緑、人を育む」をテーマに、社会の在り方や人の生き方を見つめてきました。環境問題、農山村の過疎化などの社会の課題に対し、市民一人ひとりが自ら考え行動できるよう、環境保全・地域づくり・国際協力の分野で個人や企業、教育機関など様々な人たちへ向け、多彩なボランティアプログラムの企画・提供、情報発信をしています。

◆設立 1993年（平成5年）2月21日

◆法人格取得 1999年（平成11年）9月13日

◆事務所 東京都中央区、中国・内モンゴル自治区

◆主な事業（1）国内 緑のふるさと協力隊（若者の長期農山村プログラム）

山と緑の協力隊（国内森林ボランティア）

緑の学校（児童・生徒への環境教育活動）

（2）海外 緑の親善大使（中国での植林活動）

（3）広報 機関誌「タマリスク」、会員向け情報紙「緑の通信」の発行

各種イベント出展

◆役員 理事長 小川 俊一（日本都市青年会議 常任参与）

副理事長 鈴木 経彦（菅馬場谷特別緑地保全地区管理運営協議会 事務局）

理事 青山 銀三（一般財団法人自然環境研究センター 上級研究員）

理事 浅井 正美（横浜市明るい選挙推進協議会 会長）

理事 城土 裕（一般社団法人日本森林技術協会 業務執行理事）

理事 鳥澤 文彦（一般財団法人日本青年館 公益事業部事業課課長補佐）

理事 永井 隆一（一般財団法人白山観光協会 専務理事 事務局長）

監事 塚田 正之（地球緑化センター緑の親善大使を育てる会 代表世話人）

顧問 高橋 成雄（前 地球緑化センター 理事長）

顧問 新田 均（元 地球緑化センター 理事長）

顧問 邱 華盛（元 中国科学院国際合作局 副所長）

会員募集

地球緑化センター（GEC）は、会員の皆様一人ひとりの思いを大切に、緑と人、人と人をつなぐ活動を続け今年で29年目を迎えます。運営は会員の皆様からの会費やご寄付、様々なご支援により支えられています。趣旨に賛同し団体を応援して下さる方のご入会をお待ちしています。入会希望の方は地球緑化センター事務局までご連絡ください。



特定非営利活動法人 地球緑化センター

〒104-0032 東京都中央区八丁堀4-11-3

金谷ビル2階201

TEL：03-5542-0132 FAX：03-5542-0136

MAIL：info@n-gec.org

URL：http://www.n-gec.org

2022年7月25日より移転します。



最寄り駅：JR京葉線、東京メトロ日比谷線「八丁堀」